

2023 年度国内施設研修支援制度報告記

飛田修康

佐賀大学医学部附属病院 薬剤部

研修概要

1. 研修施設名

神奈川県立こども医療センター

2. 研修期間

2024 年 1 月 15 日～1 月 19 日

はじめに

2020 年に NST 専門療法士の資格を取得し、現在は院内の NST コアメンバーとして活動しています。日常業務では医薬品情報室と救急・集中治療領域病棟を担当していますが、小児への栄養療法の経験は少なく、勉強する機会を求めています。そんな中、国内施設研修支援制度について知り、2024 年 1 月 15 日（月）～19 日（金）に神奈川県立こども医療センター（以下、こども医療センターと略）で研修を受けることになりました。

こども医療センターは、小児病院、肢体不自由児施設および重症心身障害児施設や全国でも珍しい院内に学校を併設している施設であり、保健師の常駐やボランティア活動も非常に活発で小児医療と福祉を一体に提供できる病院でした。また、臨床研究所として研究の役割も果たしており、臨床、教育、研究、地域で医療を支える病院での研修について報告させていただきます。

研修内容と今後の取組

研修の初日のオリエンテーションでは、研修を担当してくださいました、こども医療センター Nutrition Support Team（以下、NST と略）座長兼、地域保健推進部長の高増哲也先生の自己紹介から始まりました。研修と聞いて、講義や見学が主な内容だと思っていた私にとって、高増先生がお話された国際学会への参加エピソードや NST の立ち上げから院内での勉強会での経験談は非常に興味深いものであり、自施設で直面ま

たは今後の課題でもあったと感じました。

こども医療センターのスタッフは、個々のモチベーションが高い集団であり、こども医療センターでの活動を自施設に取り入れることは難しいと思い込んでいました。しかし、実際には高増先生の周りを引き込むリーダーシップこそが、次世代の栄養治療に関わる人材を育成するためには欠かせない要素だと感じました。

こども医療センター NST では、それぞれのテーマごとに栄養プロジェクトチーム（Nutrition Project Team；以下、NPT と略）として独立した活動を行っており、各 NPT が責任感を持って取り組んでいる姿勢は勉強になりました。まずは院内の NST 専門療法士取得を目指すスタッフをサポートするチーム作りを行っていきたいと考えています。

また、研修中には総合診療科科長の田上幸治先生から自閉症の偏食について学ぶ機会がありました。「すべてのこどもにとっての食のガイドライン」から、自閉症の子どもたちが「食べ物を拒む」「レパートリーの少なさ」「単一食物の摂取」が多いことを学びました。小児領域での経験が少ない私にとって、症例を交えた講義は自身の知識を広げる貴重な機会となりました。そして、研修修了後には偶然にも小児病棟担当の薬剤師から自閉症患者の栄養相談を受ける機会がありました。まさにレパートリーの少なさや単一食物の摂取が問題として現れており、研修で学んだ知識を活かして、栄養士や病棟担当薬剤師と協力し、レパートリーの拡大や不足する栄養素の改善に現在取り組んでいます。もし研修を受けていなかったら、対応することは難しかったでしょう。本症例をきっかけに小児病棟担当の薬剤師には小児栄養に今後興味を持ってもらいたいと思います。

研修期間中には、研修生たちがそれぞれ今後取り組みたい課題などをプレゼンテーションしました。私は「救急・集中治療領域での薬剤師の栄養介入に対する調査」について発表し、参考になる意見や知見を得ることができました。こうしたディスカッションや休憩中の雑談の中でも、課題や問題点に関して参考意見をい

ただける環境は、研修を通して得ることができるだけでなく、他の施設との連携も重要であり、大切にしていきたいと思っています。

さいごに

本研修に参加できたことは、まさに特別な体験でした。著名な高増哲也先生から直接、その豊富な知識と経験に基づくお話を聞くことができ、それはまるでオペラやオーケストラの演奏を特等席で鑑賞しているかのような、心地よい驚きと興奮に満ちた時間でした。その一方で、ヨーロッパ臨床栄養・代謝学会 (ESPEN) は栄養教育を非常に重要視しており、医療者を対象とした栄養教育プログラムである「Life Long Learning (LLL) プログラム」を開始しています。これは、医療者が一生涯学び続けることを促す意義深い活動だと感じております。

私自身、以前からこのプログラムへの参加に興味を持っていましたが、なかなか一步を踏み出せずにいま

した。しかし、アレルギー科医でもある高増哲也先生から、「英語もアレルギーと一緒に少しずつ摂取することが大事」という励ましの言葉を受け、参加報告を書き終えると同時にLLLの受講のためのアカウントを作成しました。このように、興味を持ったタイミングを見極め、身近な目標を立て、大きな目標に向けてサポートできるように、今後も精進していきたいと思います。

謝 辞

お忙しい中、この研修を開催してくださった高増先生に深く感謝します。また、神奈川県立こども医療センターのスタッフの皆様、国内施設研修支援制度の委員の皆様にも、その献身的な支援に対して感謝の意を表します。そして、研修期間中に業務をサポートしてくださった同僚や、研修に対する理解と応援を示してくれた家族に対しても、心より感謝の気持ちを述べたいと思います。